

北海道酪農村における後継者問題

— 北海道天北地方 横尾町内部落の実態調査 —

安倍恒雄 (北大大学院)

農業後継者問題は、今日の農業・農村問題のなかで重要な位置を占めています。それは、専業経営形態として展開し、「大規模化」した酪農においても例外ではない。酪農経営における労働過重、負債増大、健康破壊等の生産・労働一生活過程の諸問題に、後継者問題は少なからぬ影をあげていますといえるのである。本研究は、草地型「大規模」酪農地帯として形成されたつある天北地方、横尾町内部落の実態調査研究であり、酪農民の生産・労働一生活過程の諸問題へ、後継者問題から接近しようとするものである。

(1)

酪農村の後継者問題を、ここでは「家」の、そして「地域」の後継者問題としてとらえてみたい。

「家」の後継者問題とは、既によりも生産と生活の単位である「家の」の継承にかかる問題であるが、それは、生産手段としての土地相続を基軸として、農業の後継、そして親の扶養を含めた生活の世代的再生産の問題といえよう。酪農村にあって、これらは一体となる。したがって、後継者問題は生活の基盤である農業の後継にかかる問題といつてもよいであろう。ところで、酪農経営における後継者の位置は次のような内実を占めている。①酪農経営の大規模化は労働の増大を伴つてゐるため、家族労働力の確保を必要不可欠なものとしていること。②現在の生産力を支えている大型純機「一貫」体系とその労働構成の中核的担い手として後継者層が位置づくこと。③後継者の存否が、経営の持続性を測定する社会的基準とされたり、資金融資、土地売買の際に、社会的ハンディをさえ受けまとつてゐること。それゆえ、

酪農経営の展開を「家」の生活史のなかでとらえ、階層分化と後継者の動向との関連を明さねばならない。

(2)

ところで、「地域」の後継者問題とは、地域社会生産の全般にかかる次世代の担当者の存否の問題であるが、酪農村の場合、農業後継者が即地域の後継者となる。しかし、それは次のような領域でも重要な問題である。

酪農経営の「大規模化」は農業技術の変革を伴つた。その際、技術の普及、導入に、後継者の研究集団、作業集団が重要な役割を果たしてきたといえる。また、機械化による生産力上昇は、農家の個別作業体系では解決しえない構造となり、共同作業を不可欠なものとしているが、共同作業の担い手は後継者層である。しかし、離農の増大による部落ごとの年金集団の解体、また部落ごと自身の機能喪失のなかで、後継者集団は解体・再編されてしまう。それは、部落を基礎とした社会構造から、町の社会的構造と個別農家との直接的結合を軸とした社会構造への変動といえであろう。農業技術の普及、経営の管理もかかる構造のモビに再編工いつつある。したがって、後継者と地域社会とのいかわりがどのように変化していくのかを明さねばすることが重要である。

(3)

以上の点を考察し、最後に、今日の農業後継者像について考察したい。構造の変化や、共同作業の必要性、社会的構造との結びつきの深まり、従来の急成長から内実重視への転換等の変化のなかで、後継者は生産・労働一生活過程の諸問題に、世帯主とはちがつた対応を模索していくといえるだろう。